

＜株式会社エフエム東京 第325回放送番組審議会議事録＞

1. 開催年月日: 平成17年10月4日(火)
2. 開催場所: エフエム東京 本社10階大会議室
3. 出席委員(4名)
青 池 慎 一 副委員長 内 木 文 英 委員
横 森 美奈子 委員 渡 辺 貞 夫 委員

4. 番組試聴

【番組名】「S-1 GRAND PRIX 2005～わたしの選択」

【放送日時】2005年9月11日(日) 26:00～27:30

【番組概要】

《第44回衆議院選挙対応について》

第44回衆議院選挙は、解散へのいきさつ～解散後のさまざまな動きを含め、近年稀にみる注目度となりました。

自民vs民主、郵政法案反対派vs刺客候補、亀井静香vsホリエモン…。さまざまな対決がちりばめられた今回の総選挙を、TOKYO FMはそれぞれの対決で勝敗を分けるポイントを浮き彫りにすることをテーマに選挙当日はもとより、事前段階から、総選挙に関する取材、放送を実施致しました。

K-1(立ち技格闘技イベント)やM-1(漫才日本一を決める大会)などを元ネタに、「選挙」、「刺客候補」などの頭文字“S”を取って『S-1 GRAND PRIX 2005』と題し、選挙当日は30分に1度程度の開票速報を実施。また、23時台については通常番組を休止してプログラム・ネットの特別番組、26時からも東京ローカル(番販で8局ネットに)で特別番組を編成し、開票速報と各党幹部のインタビュー、選挙戦を仕事とする選挙のプロの勝敗分析などを放送致しました。

また、選挙直前の平日夕方には、主要政党に同一の質問を投げかけ、各党の方針や理念を語る代表者からのインタビュー回答を質問ごとに放送する特別番組を放送し、テレビでは分かりにくいそれぞれの違いを浮き彫りにしました。

この他、インターネットでは、毎週金曜日に実施している『Mobile Judge』にて解散後から、9月の選挙の当該週まで、および選挙翌日に、選挙関連のアンケートを実施。ターゲットリスナー世代の意識を映し出すオリジナルデータとしてリスナーと双方のやりとりを行いました。

《事前対応》

『S-1 GRAND PRIX 前哨戦』

主要政党に同一の質問を投げかけ、各党の方針や理念を語る代表者からのインタビュー回答を質問ごとに編集、それぞれの違いを浮き彫りにしたうえで、選挙直前の9/5(月)～8(木)の18:50～19:00に、10分ベルトの特別番組として放送致しました。

マニュフェストを自分で取りに行って読む有権者はなかなかおらず、新聞・雑誌な

ど活字での一覧表は印象に残りづらい。テレビ討論では、話している途中に反論をうけたり、司会者にかきまわされたり…。

有権者にとって、しっかりと党の持論を語ってもらい、それを同時に聞き比べる機会が少ない中、各党からも「ありそうでなかなかなかった企画だ」と好感をもたれ、各党の要職者がインタビューに応じました。

《選挙当日の放送対応》

『衆議院選挙 開票速報』

20時55分～26時まで、ほぼ30分に1度の頻度で開票速報を実施。

『衆議院選挙開票スペシャル～S-1 GRAND PRIX 2005』

出 演 者：小山ジャネット愛子、大橋 俊夫

ゲ ス ト：成田 憲彦（駿河台大学副学長・細川首相元秘書官）

放送日時：9月11日（日） 23:00～23:55

23:00～23:30（JFN38局フルネット）

23:30～23:55（JFN34局ネット）

番組概要：開票情報と各党幹部のインタビューを中心に選挙状況を伝える番組。

自民、民主の党首・幹事長らがインタビュー出演し、政権交代を経験したゲストが、当時と今回との違い、政権交代のダイナミズムについて語りました。また、リスナーからは、「選挙用紙にメッセージを書き込む欄があったら？」という質問を投げかけ、集まったメッセージを紹介するとともに、各党幹部へのインタビューにも反映させました。

『S-1 GRAND PRIX 2005～わたしの選択』

出 演 者：鈴木 啓三郎、大橋俊夫

ゲ ス ト：三浦 博史（選挙プランナー）

放送日時：9月11日（日） 26:00～27:30（JFN8局ネット）

番組概要：さまざまな対決がちりばめられた今回の総選挙の大勢判明をうけて開票情報とともに注目の選挙区を詳しく振り返る番組。特に、今回の選挙を象徴する東京10区については、記者のスタジオレポートを交え、より詳細に伝えました。番組では、数々の選挙戦で、手がけた候補者を勝利に導いた『選挙のプロ』、選挙プランナーが注目候補や政党の勝因・敗因を分析し、「勝つための選挙戦」を解説。また、郵政民営化の理解度や、争点、投票の際の判断基準などについて、若い世代を中心に街頭アンケートを実施し、番組内で分析。今回の選挙戦にどのような傾向がみられたかを改めて探りました。

《WEB対応》

『MOBILE JUDGE』

毎週金曜日に行っているワンクリック・アンケートでも解散直後から選挙関連のアンケートを実施。また選挙翌日にも、緊急MOBILE JUDGEを実施、自民党の大圧勝を受けてのリスナーの心境を映し出し、プレスリリースとして発表しました（資料別添）。

<試聴時間:約22分>

【委員の意見および社側説明】
(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 選挙とはそもそもドラマティックなものであるから、抑えてやっても賑やかにやつても、ドラマになると思う。1時間30分の番組を試聴用に22分に良く纏められていた。選挙はどうなるか分からず、つまりドラマである。劇作家の内村直哉さんが、かつて、ドラマは葛藤・対立であるということをおっしゃっていた。それが観るものの聴く者を惹きつける。そんなことを思い出しながら聴いていた。ゲストに三浦博史さんを選んだことが良かった。彼の解説は明快であった。彼の起用が番組に新鮮さや充実感を与えたと思う。
- 番組作りとしては、選挙の日の当日にこのような企画の番組を放送することは良い事だと思う。ゲストの三浦博史さんの選挙プランナーという仕事は、政策や人柄などは関係なく候補者を当選させるという目的のものであろう。今回の選挙では、政策や人柄ではなく、党首で選んだ人が多いということを言っていたが、個人的には人柄も大切だと思う。選挙を仕事にする人の言うことはちょっと信じられないなあ、と感じたが、それもまた人柄なので会ってみないと分からないと思った。番組作りとしては、時期を得ていてとても良かったと思う。
- 今回の選挙は盛り上がった。ニュースから目が離せなくなった。今日の試聴番組は、短くシャープに良くまとまっており、思わず当時の盛り上がりを思い出した。
選挙プランナーという職業を知らなかったので、大変興味深く三浦さんの言葉を聞かせて頂いた。個人的には三浦さんは冷静で、本質的なものの見方をしている人だという印象を受けた。選挙では理屈ではなく、党首のイメージでなんとなく選んでいる人も意外と多いと思う。大抵の人は理屈で説明しようとするが、彼はそういう部分もはっきり言い切っている。本当の意味で民意を理解している人だと思った。
やはりタイトルが気になった。「S-1」という造語については、ずっとこの先も選挙があるたびに使い続けていけば、定着していくと思うが、リスナーがこのタイトルを見たときに選挙だと思って聴くかな、と思った。サブタイトルの「わたしの選択」はトーンダウンした感じがする。「S-1 GRAND PRIX」というタイトルの次にくる言葉なので、もっと突きつけるような、盛り上がった感じにしないと目が行かないと思った。
- 若い人たちに興味を持たせる、という意味では選挙はエンターテインメントになっても良いと思う。M1F1 世代をターゲットにしている TOKYO FM としては有意義な取り組みの番組だったと思う。
- 興味深く聴いた。選挙はドラマ性を本質的にもっていると思う。そこをきちんと捉えた作りになっていた。テレビ報道などには無かった適度な抑制が効いており良かったと思う。この番組に限らず TOKYO FM は若者に焦点をあてた分析・リサー

チをしている。この取り組みがこの番組にも出ており、他に無い特色が出ていて良かった。三浦さんは新鮮だった。切り口も鋭い。この人の起用がこの番組を形作っていたと思う。選挙事後の分析としては鋭さがあり、面白くて良かった。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放 送: 番組「TOKYO FM ブランニューソング」
10月28日(金) 5:00~6:00放送
- ② 書 面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FM ホームページ内
<http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は11月8日(火)に開催することを決めた。

以上